

市民待望のはじまりのみちはじめてのみちはじめましての緑の道 オープニングセレモニーの開催によせて

朝霞市役所南側から延長約680メートルにわたり、幅員20メートルの公園通りがさらに30メートル西側に拡幅し、いつでも人が憩い、集え、まちに新たな活力と賑わいをもたらす緑の道となりました。

ここは以前、米軍基地として使用されていた広大な敷地で、返還後も国の留保する土地としてフェンスで囲まれ誰も入ることのできない場所となっていたので、その一部が市へ譲渡され新たな空間に生まれ変わることは、市民にとってとてもワクワクすることです。

「公共空間の活用」「プレイスメイキング」など、都市における公共空間の重要性が示唆される中、新たに生まれたこの緑の道も、まさにこれからどのように活用していくべきか考えていかなければなりません。

オープニングセレモニーは、そのひとつの活用例として市民の皆さんに示せるものとしたと思っています。

そのために、市民と市の職員で実行委員会をつくり、市民の手作りマルシェやプレーパーク、歴史ツアーなどを開催し、皆が楽しめるオープニングイベントを企画しました。

きっと、これからこの緑の道が、市民が主体的に活用し憩い集える場となる、そんな無限の可能性を感じることで一日となるはずです。ぜひ足をお運びいただき、皆でその無限の可能性を実際に肌で感じてみてください。

実行委員のオープニングセレモニー開催への想い

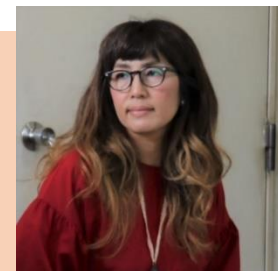


きもと たかひろ

委員長 木本 孝広 Damaya company株式会社代表取締役

いよいよオープンします。市民と行政が協力しながら長年もの間、構想から実現に向けて作り上げてきたものです。しかしこのプロセスを知らない市民の方も多いと思います。僕は、このオープニングセレモニーを通じて、自分たちのアイデアと行動力でこんなに楽しいことができるんだということを、一人でも多くの方に体感してほしいです。公共空間は行政だけが作るものではありません、市民一人一人が自分たちで作りに上げていくものなのです。さあ、まちを楽しみましょう！

私がこの基地跡地の過去と未来に興味を持って、約7年。「国有地」と書かれた看板とフェンスの向こうの鬱蒼とした茂みは、不気味でありながら未知数の可能性を醸し出し、さらには朝霞であって朝霞でないというもどかしさ、こわいながらじっくり見てみたくもあるこの地の魅力にとらわれていました。「ここで何かできたら」という想いは「ここでこそ何かをすべきだ。それが朝霞の未来を作るんだ。」に。自ら住まうちは、自らの手でつくるべき。そうひそかに企んできました。晴れての供用開始、おめでとうございます。この大事なセレモニーに携われたことに心より感謝申し上げます。



たきざわ

委員 滝澤 いと コトノハコ代表



おおの よしお

委員 大野 良夫 朝霞の森運営委員会委員長

この日を、市民みんなでお祝いしたいと思います。この「緑の遊歩道」づくりは、計画から整備まで市民と朝霞市の共同の下に取り組みされてきました。市民も独自に見学会や講演会、ワークショップなどを開催。ウッドチップ敷き、外来種の駆除作業などは市職員と一緒に作業を行ってきました。オープン後が本当の市民の出番です。市民の皆さんと一緒に使い勝手の良い、自由度の高い緑地空間として活用していきたいと願っています。